

おみくじ・スパゲティ・パン・ピザ……

街に♡あふれる

クリームパン、ピザ、おまんじゅう、おみくじ……。筑後市のおちこちでなぜか目につく♡の形。筑後市は「恋のくに」として売り出し中で、飲食店などがバレンタインデーに合わせて、ハートや恋にちなんだ商品で盛り上げようとしている。

恋の神さまとして知られる筑後市水田の恋木神社には、2月限定のハートのおみくじ結び台が設置されている。小雪がちらつく9日も、若いカップルが手を合わせていた。バレンタインデー前後には市外からも多くの人が訪れるが、権禰宜の宮原章史さん(35)には「食事をする場所がわからない」などの声が寄せられていた。そこで、若手飲食店主らに声をかけ、「恋」の食べ歩きを企画。食べたらハッピーになれるような「パワーフード」がうまれた。「グルメ」と「巡る」をかけた「恋グル」として、地図と紹介するパンフレットも作成。多くの店で2月末までの期間

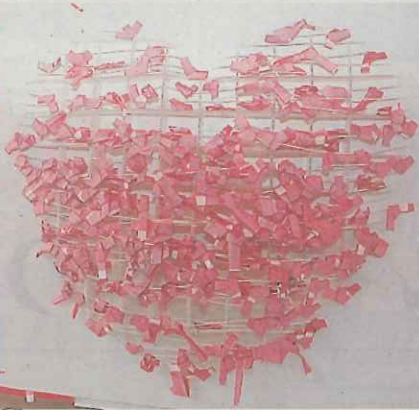
「恋のくに」筑後 神社や店

限定として出されている。本格的イタリアンが自慢の「amp」(同市野町)のオーナー大藪剛士さん(38)は「恋の甘酸っぱさを出したかった」と、地中海野菜の甘さとワインビネガーの酸味をきかせ、トマトソースを絡めた「赤い糸のスパゲティ」(890円)を創作。ハートの器に、ハートのパスタや、ハートにくりぬいたスツキニとともに盛りつけたハートづくしで、参拝帰りの人たちが注文するという。「有名になった恋木神社と一緒に、地元を盛り上げたい」

「麦工房NANAKURA」(同市和泉)の氏家皓平店長(33)は、男女が結ばれるイメージを、紅白のパンを結んだイチゴとカスタードのハート形クリームパン(150円)で表現した。「いろんな店が一つのテーマで一緒にキャンペーンをするのは初めてでおもしろい」と話す。恋木神社では11、12の両日、恋にちなんだイラストや陶芸、植木などの展示販売、恋木神社オリジナル包装のチロルチョコくじ、ハートクッキーで飾られたココアや「良縁」と書かれたオリジナルガムが味わえるカフェなどイベントも企画している。宮原さんは「『恋』と聞けばみんな楽しい気分になれる。市全体が恋の国として盛り上がるように、もっと規模を広げてやってみよう」とさらなる展開を考えている。(八尋紀子)



ハート形のおみくじ結び台 恋木神社



「amp」の「赤い糸のスパゲティ」



「麦工房NANAKURA」の「小粋なクリームパン」



「Buono」の恋木ピッツァ(千円)もハート形



食紅でほのかなピンクの上用まんじゅう「中村屋」の「恋のはじまり」(80円)



チョコチップをはさんだパイ生地「チョココーディング」の「恋木パン」(100円) しいずれも筑後市